

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0171300072), 法人名 (メリーライフ株式会社), 事業所名 (グループホーム里の家大曲 つつじ), 所在地 (北海道北広島市大曲緑ヶ丘1丁目2番地2 TEL 011-377-8373), 自己評価作成日 (令和2年12月4日), 評価結果市町村受理日 (令和3年2月16日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願いとし信じあえる希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したもとなるように配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め、支援させて頂いています。馴染みのある家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事や地域の交流などで、生活のリズムを通して、忘れていた自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。また、職員一人ひとりが、利用者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆつくりと関わりをもち、落ち着いた環境の中でコミュニケーションを図っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JieyosyoCd=0171300072-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年1月25日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(Empty box for external evaluation comments)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff/user interactions.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	里の家の4つの理念に基づき、日々意識しながら支援に取り組んでいる。地域密着型の意義を理解しているが今年度は思うように取り組めない状況があった。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症の影響もあり、地域との交流は少なかったが回覧板が回ってきており町内会一員となっている。また挨拶を交わすなど日常的な交流は行われている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染症の影響で里の家祭りや市のボランティアの派遣中止があった。現状では取り組みができなかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	緊急事態宣言の時期はできなかったが、ここ最近では密にならないよう少人数で運営推進会議を行っている。町内会役員、市の職員、支援センター職員等は電話でやりとりし意見交換に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定調査の日程の調整や福祉課との連絡、面談等を日頃から関係を築きながら取り組んでいる。協力関係ができています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議では身体拘束委員会を設置して定期的に11項目一つ一つについて具体的内容を取り上げながら話し合いが行われている。玄関の鍵は立地的に道路側に面しており危険なため施錠しているが職員が付き添いいつでも外出できる状態になっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	小さな事でもエスカレートしないようお互いに職員が声を掛け合いながら虐待につながらないように意識して取り組んでいる。常に高齢者虐待防止法について振り返りを行い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についてご家族から相談を受けた時には十分な説明や助言を行いながら活用できるよう支援を行っている。職員も内部研修で権利擁護について学ぶ機会を持ち理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要説明書を説明して内容について十分ご理解いただいている。また解約時の不安点や疑問点に関してもその場で納得できるようご説明してご理解いただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	とくに介護計画書の説明時(現在はメール、電話)にはご家族のご希望や要望等をお聞きしている。必要によっては来設時にご意見を聞くなど機会を設けている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を聞く機会が多く、話しやすい雰囲気がある。提案が反映できるものもあるが、難しいものもある。人員調整など代表者や管理者は意見反映に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の人手不足や高齢化で厳しい面はあるが休日、有休希望などのできる限り対応して調整を行うようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在は新型コロナの影響で外部研修は行っていない代わりにリモート研修に参加している。他に内部研修を定期的に行っている。毎月テーマを決めながら実践に活かせるよう職員は取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北広島ネットワークや市部会など活動を行っているが今年度はメールや電話等で連絡を取り合いながらサービスの向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初はご本人も困っていることや不安が多く一緒にお話を伺いながら寄り添い、安心につながるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の事情も理解しながら入居後1か月ほどは、ご本人の様子等を報告して安心できるよう関係づくりに取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	帰宅願望などご家族や利用者との要望に違いがあることもあり支援内容は十分な説明を行っている。始めは特に関わりを重点的に意識した対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の性格や生活歴から「できること」「好きなこと」を把握して日常生活に取り入れている。職員とはいつも喜怒哀楽を共にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診の結果や最近の様子など電話やメールで連絡を行っている。現在は面会中止となっているが、オンライン面会、リモート面会で対応してご家族との絆を大切にしながら関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前に住んでいた近所の方や同じ職場の方などが来設されている。また市のボランティア活動の方はコロナウイルス感染症の影響で現在は来設されていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに介護度も違い性格もそれぞれの利用者のため関係性によっては言い合う場面もみられるが職員が介入することで大きなトラブルはなく未然に防げている。時には助け合う様子も見られている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームで過ごした時間を大切に、契約が終了しても日常生活のアルバムを作成してご家族にお渡ししている。また事情で他施設への移動の際には相談を受け調整を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしのさりげない会話の中からご本人の希望や意向を把握している。また言えない方は表情や仕草で思いを理解するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人に限らず、同居されていたご家族にも情報をいただき生活パターンや嗜好品などお聞きしながらサービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の「できる力」を把握して暮らしの中に取り入れている。家事や体操、歌、パズルなど現在は三密をさけながら取り組んでいる。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニット会議を行い入居者一人ひとりについてカンファレンスを行っている。それぞれについて意見を出し合いながら日々のケアが同じ方向性になるようチームとして課題に取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過記録は一人ひとり個別に記載している。特に心身、身体状態に変化が見られたり、受診結果等は必ず記載して職員間で情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のお買い物依頼やご家族への電話の依頼があった時は取次ぎを行っている。また受診には介護タクシーなど車両の手配をして調整を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容室を利用しているが今年度はコロナウイルス感染症の影響で1回となっている。絵手紙サークルからはお誕生日にはがきが届き利用者の楽しみになっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院があり月2回の訪問診療を受けている。皮膚科や歯科往診も対応している。入居者の症状によっては精神内科の受診も行っている。結果報告はご家族に連絡している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師が来設している。一人ひとりの入居者の体調や状態など伝え、相談しながら適切な受診につなげるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側と情報交換を行い入居者の状態把握を行いながら、早めに退院できるよう入院期間の相談、調整を行っている。認知的な面があるため早期に術後、2日で退院された方もいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化している利用者は当ユニットでは該当はないが、いつでも看取りができるよう資料等をみたり、他ユニットの看取りの方の状況や取り組み内容など終末期の支援について情報共有をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個人別に緊急ファイルや事故発生時のマニュアルが作成されている。内容に変更があった場合は見直しを行っている。職員は把握できるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自家発電機の操作方法、備蓄品など災害時を想定して準備されている。避難訓練については自主訓練や資料で行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの状態に合わせた言葉かけを行っている。着替えやトイレ誘導はさりげなくプライバシーに配慮した対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	「食べたい」「行きたい」など意思表示ができる方には行事に取り込んだりしている。また入浴日の希望や買い物への依頼にも対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の思い思いのペースで過ごしていただいている。居室に多く居られる方には安否確認のため訪室している。家事やパズル、ゲーム、体操などお誘いしながら職員と一緒に過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや爪切りは定期的に行っている。女性入居者は化粧セットを持っている方もいる。美容室は今年はコロナウイルス感染症の影響で来設が難しい状況。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材テストを実施して毎回テーマを決めて利用者に美味しい食事を提供できるよう取り組んでいる。出来る限り利用者のリクエストに対応している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は一人ひとりの嚥下状態に応じてトロミ使用したり、刻み食、ミキサーでペースト状にしたり工夫している。利用者によっては好みの飲み物を提供して十分に水分量は摂れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に歯科往診があり利用者の状態に合わせて入れ歯の調整などを行っている。新しい入れ歯を作った方もいる。食後は声をかけて職員が口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力で行けない方には排泄表を作成して時間を見ながら誘導している。トイレ内での排泄ができるよう排泄パターンを把握しながら支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から食事にヨーグルトや牛乳を提供して便秘予防に努めている。便秘や下痢症状のある利用者は訪問診療の際にDrと相談しながら薬調整もを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴を支援している。利用者の希望により曜日を決めている方もいる。入浴を拒否される方にも様子を見ながらタイミングよく声をかけながら支援を行うことで入浴できている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースに合わせて安眠できるよう取り組んでいる。昼夜逆転で不眠が見られる入居者もいるが安否確認を行いながら入床を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を理解して一人ひとりの薬を把握している。薬の保管方法や服用方法は統一されている。薬局と連携しており、いつでも相談できる環境になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カーテンの開閉や日めくりカレンダー、洗濯物など入居当初から日課となっている方もいる。他レクなど気分転換しながら過ごして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ好きな方が多く、よく行っていたが新型コロナの影響で思うような外出支援ができていない。マスクを着けて玄関先での外気浴や車から降りない形でのドライブなど行っている。現在は受診も考慮してリモート診療などに切り替えている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当ユニットでは一人だけ所持金を持っている。買い物の希望は、自身で選び職員に依頼されている。他の利用者はホームで管理している。必要な物はご家族に連絡して対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時はいつでも対応している。耳が聞きえざらい利用者は職員が用件を伝え取次ぎを行っている。面会はオンライン、リモート面会を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの行事のポスターや飾りつけ、カレンダーが貼られている。温湿度計を設置して居室の調整を行っている。加湿器の設置、ウイルス対策として次亜塩素酸ナトリウム使用しての除菌など感染対策を行っている。また換気を行いながらできるだけ三密を避けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者一人ひとりの性格をよく理解して、テーブルの配置替えを行ったり、車いすの方が増えたため食事席の移動をして居場所作りを工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏壇等を持って来られる利用者が多い。またご家族の写真や免許、賞状も飾ってある。認知力によっては理解できなくなることもあり、その際はご家族に相談を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の名前は分かりやすく読みやすいように表示されている。車いすを自操される入居者もおりホールは安全を考慮して廊下などには物を置かないように配慮している。		